

農学部の 歴史の証



農

学部2号館屋上から見た3号館の建築現場で、昭和14年（1939年）の卒業アルバムの中の一枚です。3階部分が建設中のようですが、

農学部3号館は昭和16年（1941年）の太平洋戦争が始まった年に竣工していますから、戦争前の物資の不足のため随分と時間がかかったようです。中庭に高くそびえている煙突を建ててから、校舎の建設を始めたことがわかります。最近この煙突は老朽化したため撤去され、新しい煙突が大型クレーンで裏から屋上を越えて設置されました。周知のように、農学部が昭和10年（1935年）に駒場から移転してくる前は、弥生キャンパスは第一高等学校のキャンパスでしたが、当時は3号館とその裏手は空き地でした。一高の校舎は農正門から3号館前の部分に大きく口の字に建てられ、中庭は西洋の公園のような風情だったようです（『向陵誌』第一巻より）。

3号館の完成に伴い、昭和16年には水産学科の生物系講座は2号館から3号館に移転しました。筆者が駒場から進学してきたのは昭和42年（1967年）ですが、水産学科の教室や実験室は当時も3号館にあり、五月祭では油壺で採集した魚を実験室に展示する水族館が、それ以前からの伝統でした。五月祭が終わると残った魚を当時1・2号館の間にあった池（弥生42号）に放し、海水魚が淡水中でどのくらい生きられるのか実験（？）したことを覚えています。筆者が博士課程3年の昭和48年（1973年）には2号館の大規模な内部改修があり、研究室は3号館の標本室に1年余り間借りしていました。

現在の3号館は中庭に地下および1階部分が増築され、学生サービスセンターや国際交流室、文書交換室などが整備されました。また、生協食堂の北側の中庭は事務部の皆さんのご努力で美しい花々が咲き乱れる空間に生まれ変わり、隔世の感があります。

水産化学研究室

阿部宏喜 教授